

令和6年度第2回麻生区地域包括支援センター運営協議会会議録

1 日 程 令和7年3月11日（火）12：15－13：30

2 出席者

- (1) 委 員（7名）：石原委員、太田委員（オンライン参加）、金長委員、瀬戸口委員、堤委員、
生田目委員（オンライン参加）、野口委員（オンライン参加）、平山委員
- (2) 事務局 麻生区役所地域みまもり支援センター：須藤所長
高齡・障害課：正木課長、高齡者支援係：瀬下係長、村上主任、山内
地域支援課：地区支援係 三島係長

3 欠席者 なし

4 傍聴人 なし

5 議 事（公開）

- (1) 地域包括支援センターの取り組みについて
柿生アルナ地域包括支援センター
高石地域包括支援センター
- (2) 地域包括支援センター業務検討について

【配布資料】

別紙1 委員名簿

《議題資料》

- 【資料1】柿生アルナ園地域包括支援センター報告資料
- 【資料2】高石地域包括支援センター報告資料
- 【資料3】地域包括支援センター業務検討について

《その他》

地域包括支援センターだより
生活支援コーディネーターを知っていますか？
地域リハビリテーション支援拠点のご案内

6 審議経過

【議事（１）地域包括支援センターの取り組みについて】

（地域包括支援センターより説明。【資料１、資料２】）

<質疑応答>

・平山委員

生活支援コーディネーターはできてから間もないということですが、地域密着型の支援として実績としてはどれくらいの件数がありますか？

・高石包括支援センター

今お伝えした１８名のうち、実際に利用された方は２名です。その他はすべて健幸ＵＰ、リハビリ専門職の方のプログラムを利用されています。チラシを見ると、具体的に何をしてくれるのかが分かりづらいのですが、柔軟に対応していただきました。

お一人の方は精神的に引きこもり状態だったため、定期的に訪問していただきました。その方の好きなことを聞き出し、その時は、折り紙が好きということで、一緒に折り紙をしたり、お話を聞いたりといった関わりをしていただきました。

もう一人の方は、圧迫骨折をしてしまい買い物に行けなくなった方で、回復するまでの間、お買い物の手伝いをして、「元気になったら一緒に買い物に行きましょうね」という形でサポートしていただいています。

・平山委員

包括は生活支援コーディネーターと連携し、一緒に訪問したり、プランによっては別々に対応したりと、柔軟に対応されているんですね。

・高石包括支援センター

この予防事業に関しては、包括は最初の入り口としての相談対応と、１か月目、３か月目、最後の卒業時といったタイミングで進捗確認や今後の方針を一緒に考える役割を担っています。情報共有や状況報告など、連携はしっかり取れています。

・平山委員

あまり件数が増えると、業務が増えてしまいますね。

・太田会長

各包括では地域活動に取り組まれています、コロナや感染症の影響がまだ完全には収まっていないものの、以前より活動が活発になってきたように思います。現場ではどのように高齢者の方々を支援しておられるか、印象をお聞かせください。

・柿生アルナ園地域包括支援センター

コロナが明けてから地域活動を再開した際、最初は１０名にも満たない参加者でしたが、現在は２０名前後まで回復しています。コロナ前の水準に戻りつつあると感じています。地域活動に参加される方は限定的で、どの場所でも同じ方々が参加している印象です。複数の会場で開催しても、元気な方は自分で移動して参加されています。

- ・高石地域包括支援センター

当センターも同様で、人数はコロナ禍より回復しつつありますが、参加者の高齢化が進み、以前は参加できていた方が来られなくなるケースも増えています。そういった方々のために、生活支援コーディネーターの方が送迎を手伝ってくださることもあります。そのような工夫で参加している方もおられますが、この体制が今後いつまで続けられるのか、少し不安も感じています。

【議事（２）地域包括支援センター業務検討について】

（事務局より説明。【資料３】）

＜質疑応答＞

- ・金長委員

私、この協議会にかなり長く関わっています。包括支援センターの業務が忙しい、というのは以前からずっと言われていますが、なかなか改善が難しいのも事実です。我々の側でも忙しくしてしまっている部分もあり、改善が進みにくいと感じています。

たとえば川崎市内で改善案を皆で話し合うのもいいことだと思いますが、他の地域行政でうまくいっている事例などがあれば、それを参考にしても良いのではないのでしょうか。「こうしたら効率が良くなった」などの事例があるといいですね。今の時代、ITやデジタル化といった手段だけでなく、業務効率化を専門にしているような業者や専門家もいます。そういった外部の力を借りるのも一つの方法ではないかと思います。

あと、最後になりますが、これは給料の話です。これに限らずですが、人が辞めていく要因にはやはり給料も大きく関係しています。ケアマネジャーや介護業界全体にも言えることですが、新しくできた企業などの初任給も高額な給料を提示しているという時代になってきているので、業界としてもなかなか給料を上げるのは難しいかもしれないが、そこが一番シビアな部分かなと感じています。

- ・事務局

本庁の地域包括支援センター担当の方では、他自治体のデータや事例を参考にしつつ、新しい事業の立ち上げなどを進めています。たとえば総合事業に関するモデルケースとして、他自治体では半年間、通所型のサービスを提供した事例がありますが、その後は、やはり介護保険への移行が避けられないという状況も出てきました。そこで我々は、あえて訪問型の形態を採用し、介護保険に依存しない形で進めているモデルケースもあります。また、現在使っているシステムは民間の介護保険関連のシステムですが、みんなが使いやすい共通システムを検討中です。理想としては、入力した内容がそのまま報告書などに反映される形にして、事務作業の軽減を目指しています。報告書も非常に分厚くなっているの、様式の見直しや簡素化など、事務面の軽減も併せて進めているところです。

- ・平山委員

業務軽減に関する話でしたが、在宅系サービスが施設系よりも遅れていると個人的に感じています。施設系では国からの補助金などもあって、記録システムが整備されてきていますが、居宅や包括支援の現場ではまだまだ整備が進んでいない印象です。

神奈川県の一部では、外部で入力してデータを飛ばすような新しい仕組みも始まっていますが、地域包括についてはまだ遅れているように思います。進展を図るには費用もかかるので、行政の方に提案していく必要があります。また、事業計画や報告書も以前よりは簡素化されてきているとは思いますが、

まだまだ読みづらいし、簡素化が望ましいです。報告書については外部の人も交えて検討し、スクリーニング表などを用いて簡素化を図った方が良いと思います。

- ・事務局

共通のシステムができるにはまだ2年ぐらい時間がかかると思いますが、外部の人も入れて考えてはいます。報告書などについて簡素化が必要、という意見が出たという事を市へも上げていきます。

- ・太田会長

ありがとうございました。

それでは以上で本日の議事は終了いたします。

【議事終了】

【閉会】